

暮らしやすく 幸せを実感できるまち

Monthly Communications Magazine



あわら

© 2021 yuu nakamoto
© 2021 awara city



第209号
令和3年7月15日発行

大切な のは人。

特集「移住と空き家」

Contents

- あわら市議会議員選挙結果 2～3
- 未来のこと一緒に考えましょう 4～7
- 教育長就任あいさつ 8
- マイナンバーカードに関するお知らせ 9

愛知県から移住した森島浩平さん（左）と
柿原区長の堀川治夫さん（右）

イベント・行事の開催について

新型コロナウイルスの影響により、やむなく中止にする場合がありますので、ご了承ください。
開催については、問い合わせ先にご確認ください。

未来のこと

一緒に考えましょう

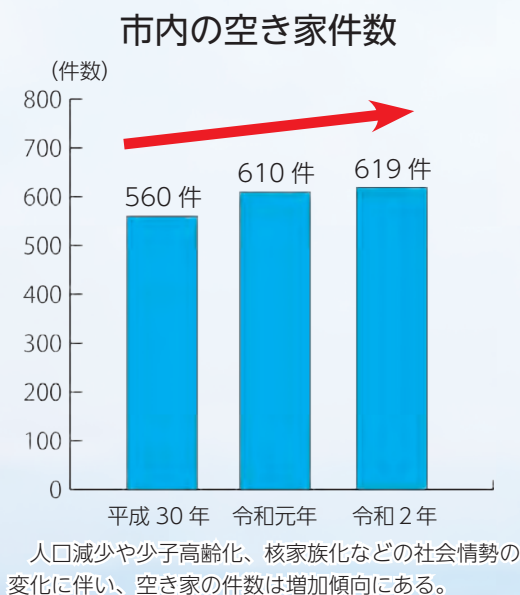
みなさんは、今、住んでいる家に愛着はありますか。一軒家に住んでいる人。アパートやマンションに住んでいる人。それぞれに事情があり、家に対する考え方も違っているでしょう。

今回は、誰もが直面する「空き家問題」に迫ります。

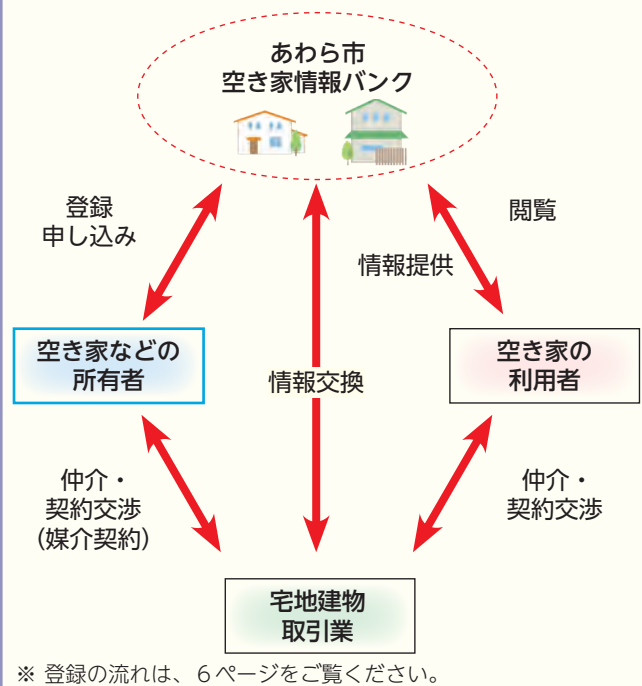
増加する空き家問題を解決するため、空き家を活用した移住・定住の取り組みとは一体何か・・・

地域を守るために空き家問題を「ちいきごと地域事」として捉え、一緒に考えていきましょう。

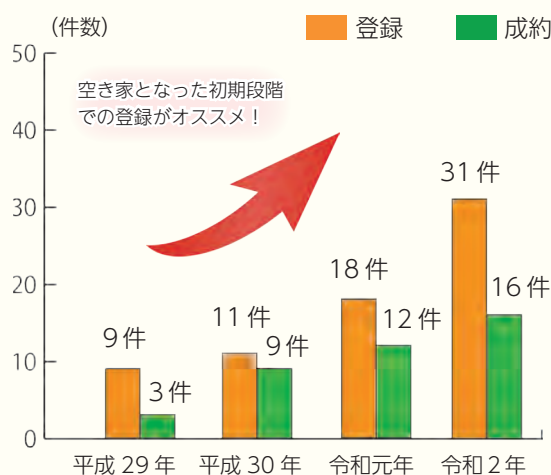
あなたが抱えている不安を、解決する糸口が見えるかもしれません。



空き家情報バンクの仕組みを解説！



空き家情報バンク登録、成約件数



私たちにお任せください

市民協働課 移住空き家対策グループ
☎ 0776-73-8003



利活用可能な空き家は、地域の貴重な資源となる可能性があります。

市では、空家に関する相談会を開催し、相続などの法律相談のほか、管理や売買、賃借に関する有効活用について、所有者の皆さんが抱える問題の解決に努めています。お気軽にご相談ください。

誰もが直面する「空き家」の問題

「空き家」問題は、自分には無縁、関係ないことだと考えていませんか？ しかし、次のようなことをきっかけに空き家は発生します。「一人暮らしの高齢の親が施設に入ることになった」、「親が亡くなり実家を相続することになったが、自分には住まいがある」、「親が高齢になり、子どもと同居することになった」。

放置するとさまざまな問題が

建物は年月とともに傷んでいきますが、人が住まなくなると急速に劣化します。空き家を適切に管理しないと、建物の倒壊、屋根や外壁、瓦の脱落・飛散などの危険性があり、近隣住民や通行人などに被害を与え、賠償金を請求される（損害賠償責任を問われる）可能性もあります。また、ハクビシンやアラビグマなどの動物が住みつくことによる環境衛生の悪化や不法投棄による悪臭の発生、不審者が侵入するなど、治安も悪化します。

予防するには

所有者が誰か分からなかったり、相続人が非常に多いなどの理由から、放置される空き家も多くあります。

そうならないためにも、早い段階で不動産の相続などについて考えることが重要です。

価値のある段階で活用を

空き家をそのままにしておく、生活環境に悪影響を及ぼすほか、改修や修繕、雑草や害虫の駆除などの維持管理費がかかります。手放したいときには解体しか選択肢がなく、処分費用だけが重くのしかかるようになっていくかもしれません。空き家となった初期段階の（建物の価値がある）うちに活用することをお勧めしています。

今後は、北陸新幹線開業による移住・定住のニーズが高まると予想されます。このため、市では、「空き家情報バンク」の活用を促進し、空き家の流通・活用に取り組んでいます。

また、売却や賃貸などの活用を希望しない場合には、「負の財産」になる前に、維持管理のことも考えて、「解体」を検討してみたいかがでしょうか。



【空き家入居者】
愛知県から令和2年12月に移住
森島 浩平さん(右)と由希子さん(左)

あわら市空き家 情報バンク

入居希望者と登録物件 のマッチング事例を紹介

Interview 移住 Interview 空き家

農業をするためあわらへ
「大切なのは人。あたたかい人
に出会えたから、ここを選んだ」

区として空き家を放置したくない
「心から柿原に来てくれてありがとう
と伝えたい」



【空き家所有者】
柿原区長
堀川 治夫さん

移住の候補地として和歌山や静岡、広島などがありました。視察を行い、Ｕターセンターに相談してきた中で、福井の人が一番優しくあたたかい印象だったので福井に決めました。また、「ふくい園芸カレッジ」という農業の研修施設があわら市にあったのも理由の一つです。農作物を育てる段階から販売までを学ぶことができる施設は全国的に少ないです。

移住先として、福井県内の他の市町も考えていましたが、住まい探しで何度か柿原を訪れた際、皆さんが本当に親切だった。

「移住前は、どんなところに住んでいましたか。また、きっかけは何でしたか。」
愛知県春日井市に住んでいました。それほど都会ではありませんが、人口が多く、田園風景とは無縁の住宅街でした。もちろん区や村の付き合いもないですし、毎日の生活が、家族だけで完結してしまっので他の誰とも繋がらないこともあり、都会の生活自体が息苦しく感じていました。前の仕事は充実していましたが、拘束時間が長く、家族との時間が全く取れませんでした。何か変えないといけないと思い、夫婦二人で腰を落ち着けて取り組める仕事につきたいと考えました。

そこで、自分が作ったものが出荷され、毎年、工夫しながら改良していくという農業に魅力を感じ、地方に移住したいと決意しました。

「あわら市を選んだ理由を教えてください。」

「どうやって「空き家情報バンク」に登録しましたか。」
ＪＶが退去した後、市の担当者から「空き家情報バンクに登録しませんか」と声を掛けていただき、令和2年10月に登録しました。

その後、この空き家情報バンクを利用

ただ、ＪＶとの賃貸借契約の期間が令和2年9月までだったことから、その後、どうやって活用したら良いか区の中で課題となっていました。区内にある空き倉庫で練習している金津高校野球部の休憩場所や、越前柿の収穫体験ができるホームステイの場として使えないか検討していましたが、早く手を打たないと老朽化するので、今後の管理も不安でした。

「柿原区が空き家を取得した経緯を教えてください。」
北陸新幹線工事事業者（前田ＪＶ）が従業員の住居を探していて、柿原区に賃貸の良い物件がないか問い合わせがありました。ちょうどいい空き家があったので、区から所有者に貸してもらえないか依頼したところ、早く手放したいという所有者の意向が強かったため、平成29年8月に区が購入し、それを前田ＪＶに勧めました。建物の改修やエアコンの設置などはＪＶの負担で行っています。

所有者が年に何度か管理していたため、建物そのものの状態は悪くはありませんでした。区民が家を建て替える際、間借りしていたこともあります。

「実際に移住して、あわら市の印象をどのように感じていますか。」
地域に根付いて区の活動をするようになったのが移住して大きく変わったところだ。

また、山や海、川があつて自然が豊かですね。車は不可欠ですが、高速道路のインターチェンジも近いし、車で10分から15分も走れば何かしらの店があるので、それほど不便さは感じていません。

「今後の目標を教えてください。」

今は、就農後の計画を立てている最中です。将来的には夫婦二人で農業しながら生計を立てていくのが目標です。

「今のお住いに入居した経緯を教えてください。」
当初は、園芸カレッジに近い古民家に住みたいと思っていました。近隣の不動産業者にもあたってみました。すぐに住める状態の物件があまりなかったため、市に相談したところ、「空き家情報バンク」に登録されていた柿原の物件を紹介してもらいました。

築年数はそれなりに経過していましたが、家賃が安く、間取りも広くて気に入りました。でも、この物件に決めた一番の理由はやはり柿原の人のあたたかさですね。

「市としては、北陸新幹線開業にむけて空き家の活用を図り、移住定住に繋げていきたいと考えています。柿原区がその先進事例となりました。今の考えを教えてください。」

少子高齢化は柿原区でも避けて通れない問題です。空き家もこれから増えていくと思います。県外に出て帰ってこない若者も多いですが、また帰ってきたいと思ってもらえるような、さらには移住者を選んでもらえるような魅力ある集落づくりをしていきたいです。そうすることで、少しでも人口減少を鈍化させていくことができればいいなと思っています。

「市としては、北陸新幹線開業にむけて空き家の活用を図り、移住定住に繋げていきたいと考えています。柿原区がその先進事例となりました。今の考えを教えてください。」
縁もゆかりもない地に若い夫婦が来てくれて、諸手を挙げて大歓迎という雰囲気ですね。森島さんが移住して間もないとき、区の総会で、あいさつされたときは拍手喝采でした。今後も村の行事に誘うなどコミュニケーションをとっていきたいです。

「市としては、北陸新幹線開業にむけて空き家の活用を図り、移住定住に繋げていきたいと考えています。柿原区がその先進事例となりました。今の考えを教えてください。」
少子高齢化は柿原区でも避けて通れない問題です。空き家もこれから増えていくと思います。県外に出て帰ってこない若者も多いですが、また帰ってきたいと思ってもらえるような、さらには移住者を選んでもらえるような魅力ある集落づくりをしていきたいです。そうすることで、少しでも人口減少を鈍化させていくことができればいいなと思っています。

移住や空き家の支援体制		
空き家取得等支援補助金 「空き家情報バンク」物件を住居として購入・リフォームする場合に必要な費用を支援します。	多世帯同居リフォーム支援事業補助金 多世帯で同居を開始するためのリフォーム費用を支援します。※ 契約前の申請が必要です。	多世帯同居・近居促進事業補助金 多世帯が同居・近居をするために、新築住宅を購入・建設する費用を支援します。 ※ 令和3年4月1日以降に契約した物件が対象です。
空き家情報バンク登録奨励金 「空き家情報バンク」に所有する空き家を登録した場合に奨励金を交付します。	空き家家財処分支援補助金 「空き家情報バンク」に登録または登録予定の空き家内にある家財道具を処分するために必要な費用を支援します。※ 契約前の申請が必要です。	補助金には、さまざまな要件があります。詳しくは、ホームページをご覧ください。 ■ 問合せ 市民協働課 移住空き家対策 G 73-8003

